

こんにちは

会社訪問記

親切・丁寧・正確をモットーに、
常に最高のサービスを行いたい。

マルサ建運株式会社

(名古屋市緑区)

昭和42年創業以来、地道な活動と自主独立を重んじた運営方針で業績を着実に伸ばしてきたマルサ建運株式会社。名古屋市緑区の本社におじゃまし、監査役経理部長の浦田さんにお話を伺いました。——まず、社名の『マルサ』は何か由来があると思いますが、どんな意味があるのでしょうか。浦田監査役経理部長（以下浦田に略）『このマルサという言葉は、そもそも一語ではなく“丸く、平均して”という意味のマルに、Smile（笑顔）、Service（奉仕）など英語の“S”を頭文字にしたサ行の言葉からサービスの“サ”をつけた造語なんです。』



事務所風景

——では、どんな品目を取扱ってみえますか。浦田『当社の主力は、社名の“建運”の通り建設廃材で、90%以上を占めています。今後もこれを軸に、取扱い品目を増やしていきたいと考えています。』
——現在、最終処分場を申請中だそうですね。浦田『はい。いま埋立してしている処分場が、もう少しで終わりますので、次を確保しておかねばいけませんからね。今年中には認可が出ると思います。また、焼却炉を来年に完成する予定で動いてもいます。』
——マニフェストの普及についても、独自に活動されていると聞きましたが。浦田『マニフェストの普及もそうですが、お客様にお知らせすべき情報を常に収集し、毎日200~300通の手紙を発送しています。この仕事は、お客様の深い理解があってこそ成り立つものだと思います。』



浦田監査役経理部長

す。相互理解があって初めていい仕事がさせていただけるはず。マニフェスト普及のための講習会も実はその一環です。産業廃棄物処理も、このマニフェストの正しい利用法が今後、普及するかどうかにかかっていると思います。』

——仕事を進める上で、常に気をつけられていることは何でしょうか。

浦田『社のモットーを“親切・丁寧・正確”とし、これを心掛けることです。これはそのままお客様への最高のサービスになると思います。お客様に当社の収集運搬車に同乗していただき、廃棄物の流れを直に知っていただく見学会を行ったり。適正処理現場を見て理解していただくことで、より安心して仕事を任せていただけるようになりましたね。』

——最後に、将来についての展望をお聞かせいただけますか。

浦田『収集運搬から中間処理、最終処分まで一貫して自社で対応できるシステムづくりを行っていきたいと思います。“最後まで責任を持って安全に処理いたしますから、お任せください”と言えるような会社にしていきたいですね。』

にこやかに優しい口調ながら、ご自分の意見を言われる時の毅然とした態度が印象的な浦田監査役経理部長。これからも、がんばってください。



社名/マルサ建運株式会社 所在地/名古屋市緑区鳴海町字乗鞍67-55
代表者/浦田三和 設立/昭和53年 従業員/125名
TEL/052(876)5948代 モットー/『親切・丁寧・正確』
保有車両/120台 営業種別/収集運搬、中間処分、埋立て処分
取扱い品目/汚泥、廃プラスチック、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず等、ガラスくず及び陶磁器くず、建設廃材